

マイスター・ハイスクールだより

令和5年度 第1回マイスター・ハイスクール運営委員会を開催

6月7日(水)、指定校の北海道厚岸翔洋高等学校において、第1回運営委員会を開催しました。

開会に当たり、委員長の若狭町長から「昨年度は水産資源の持続化などについて成果が得られ、地域経済の活性化についても高い評価が得られた。引き続き、実りあるものになるよう忌憚のない御意見、御助言をいただきたい」と挨拶がありました。

委員会では、学校長から今年度の取組について、伴走者から他県の水産・海洋系高等学校の取組について、それぞれ説明がありました。



運営委員会の様子

山本校長による説明

今年度は、「水産資源の持続化」「漁家経営の持続化」「地域経済の持続化」の3つの柱の実現に向けて、8つの取組を進めていきます。今年度の事業概要、持続化及び自走化に向けた取組、各目標についての成果と課題を踏まえた改善の方向性は次のとおりです。

<事業概要>

水産資源の持続化

漁家経営の持続化

地域経済の持続化

養殖漁業のスマート化による**地域資源の持続化を実現**

海洋環境の把握と**赤潮の早期発見**

航跡やカメラの活用による
安全体制構築や作業効率の向上

ドローンの活用による
漁場管理のスマート化

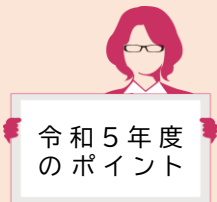
未利用・低利用魚の有効利用による
地域と連携して商品化

レシピ開発による地元食材の
高付加価値化を実現

専門家による出前授業をとおして**課題発見と最新の知識・技術の習得**

全国豊かな海づくり大会の参加・協力による**地域の魅力発信**

<持続化及び自走化に向けた取組>



令和5年度の
ポイント

★**事業実践の情報・成果を地域に提供**

★**関係機関と継続的な連携**

★**学習・指導方法の開発**



説明を行う山本校長



豊かな海づくりポスター

<各目標についての成果と課題を踏まえた改善の方向性>

目標	令和4年度の成果と課題		令和5年度の改善の方向性
	項目	結果	
定性的	社会人・職業人としての基礎となる知識・技術	57%	・地域の力を借り、「社会人・職業人としての基礎となる知識・技術」、「コミュニケーション力」の育成を目指す。 ・実践で得た情報や成果を地域に提供し、それらを「役立つもの」「必要なもの」と認識してもらう経験をとおして「自己肯定感」の育成を目指す。
	コミュニケーション力	66%	
	協働する力	77%	
	自己管理能力	77%	
	思いやり	91%	
	思考力	85%	
	道徳心	91%	
自己肯定感	68%		
定量的	地域に魅力を感じ愛着を持っている	74%	・地域課題に向き合うための学習や取組の充実を図る。 ・データの活用に関する学習方法について検討・改善する。 ・アンケートにより、学習の深まりを把握できるように学年に合わせた表現を工夫する。
	地域課題を発見し、解決に向け多面的に考え行動できる	30%	
	将来地域のために貢献したいと考え行動できる	47%	
	様々な産業人との交流を通し自身の進路を考えている	70%	
	希望進路に関連した資格取得に取り組んでいる	57%	
	ITやICTの役割を理解し活用できる	40%	
	卒業後、漁業や調理など地域の主要産業に就職したい	70%	

伴走者による説明

マイスター・ハイスクールの指定を受け3年目となる新潟県立海洋高校及び福井県立若狭高校の状況について説明していただきました。

<福井県立若狭高校>

地域のWell-beingを実現するために地域水産業の成長産業化に貢献できる人材育成のためのカリキュラム開発

- ICT機器を用いた海洋観測・新商品の開発
- 海外の高校と海洋問題等の共同研究
- 小中学校への水産海洋教育の推進

<新潟県立海洋高校>

未来を担う海洋・水産プロフェッショナル人材育成システムの構築

- SDGsの視点を踏まえた実践
- よりよい顧客体験とは何かを考える実践
- アンテナショップ「能水商店」の発展的活用

<参考になること>

- ★ 校内に生徒マイスター・ハイスクール委員会を設置している。
- ★ 運営委員や推進委員が課題研究の内容にアドバイスをしている。
- ★ 運営委員・事業推進委員が地元企業の連携を強化している。
- ★ 商品開発からビジネスまでを通じて他者と協働してよりよい社会をつくる行動を促している。

運営委員からの助言・感想等

- スマート漁業の推進や漁場環境の変化をITで把握する取組、水産物の付加価値向上に関する取組は、今後、水産業の振興の中で大変重要になるので、スマート水産業等の推進に寄与してほしい。【行政】
- 温暖化や赤潮など、厚岸町沿岸は今までに経験したことがないような環境になっており、これに対応するスキルを漁業者に浸透させ、そのスキルと産業界がリンクした形で本事業を進めてほしい。【産業界】
- 商品化により「見える化」が進むので、アメマスの揚げかまぼこが商品化されたら、アピールさせていただきたい。「豊かな海づくり大会」で開発されたメニューも販売する予定である。【産業界】
- 技術の開発や品質変化の調査などの成果を提供するので、データ解析や試作加工のヒントにいただきたい。未利用水産物の高次加工の取組についても非常に成果が上がっていると考えている。【行政】
- 循環型の持続可能な水産業は、全国的なテーマだと思うが、少し高いレベルの学習が求められる。高校生段階でどこまで理解、習得するのも考えながら進めてほしい。【行政】
- いろいろなデータを整理して考察を行うトレーニングが、産業の発展にどのようにつながるのか十分理解した上で実習に取り組めるよう、議論しながら進めていけば成果が上がると思う。【行政】
- 「豊かな海づくり大会」では、厚岸の地域の魅力の発信に一役買ってほしい。今の取組が今後の地域にとって大切なテーマとなることを発信し、地域に理解いただく取組に注力していただきたい。【行政】
- 翔洋高校が魅力ある取組を行っていることが、地域にあまり理解されていないと思われる。文部科学省から指定を受けているということをもっとPRして、生徒数増につなげてほしい。【行政】

授業視察

海洋資源科生産コース3年生の授業を視察しました。

水温や漁具把握のための「海ログ」(写真左)について、実際に生徒が携帯電話のアプリを用いて「海ログ」との連携を確認していました。その他、有害プランクトンなどに対応したセンサー機器についての説明もありました。



「海ログ」の説明



アプリとの連携の様子